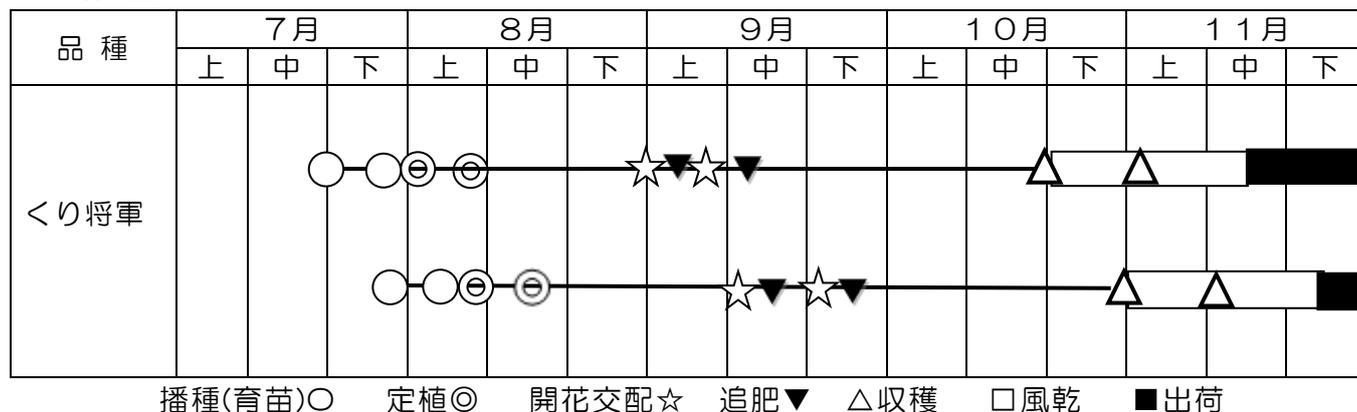


# 令和7年度抑制力ポチャの栽培（有機質肥料主体）

## 《作型》



播種(育苗)○ 定植◎ 開花交配☆ 追肥▼ △収穫 □風乾 ■出荷

## 施肥

(kg/10a)

肥料名	基肥	追肥
ぬ	120	
発酵鶏糞 (N:2.8)	80	120
アグリフラッシュ (N:14-P:14-k:14)	67	

▼追肥は、1番着果を確認後  
つる先に施用。

※窒素量として基肥(11.62kg/10a)、追肥(3.36kg/10a)になります。

(注)カボチャは吸肥力が強く、基肥が多いと「つるぼけ」となり、雌花の開花が遅れて着果節位高くなり、収穫時期が遅れます。作付前に、土壌診断をして基肥量を調整する。また、追肥の量や施用時期は草勢を見て調整する。

## 畦立て・マルチ

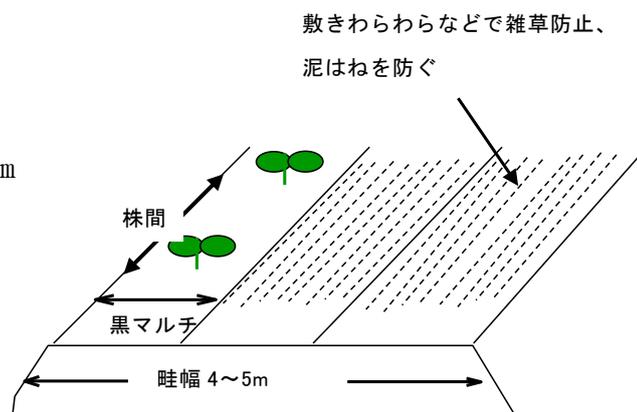
- ・耕起前に雑草が生えている場合は、事前に除草剤(バスタ液剤:薬量300ml/10a)で処理する。
  - ・畦幅(条間)4~5mとし、畝片側(定植した側)に135~150cm幅の黒マルチを張る。
- ※畦幅や定植位置は、圃場の排水条件や栽培管理等の作業効率を考慮して調整する。  
マルチは収穫後のマルチ剥ぎ取りをしなくて済む生分解性を使用する。

## 雑草対策・・・追肥・敷きわらの項参照

- ・マルチ前に除草剤(トリアリゾド粒2.5:2kg/10a)を全面土壌散布しておく。
  - ・マルチの外は雑草が生えてくるので、敷ワラなどで雑草の発生を予防する。
  - ・又は、つる先が伸びてくる前に、管理機等で軽く中耕して除草する。
- ※中耕後(秋以降)、涼しくなってくるので雑草の発生は徐々に減ってくる。

## 栽植密度

- ・親づる1本仕立て(1~2果どり)
- ・畝幅4~5m 株間35~40cm
- ・必要本数500~700本/10a



## 播種

- ・播種時期 7月下旬～8月上旬
  - ・128穴のセルトレイを使用する。※大苗で定植する場合は9～12cmポリ鉢を使用する。
  - ・栽植本数の3%程度の予備苗もつくっておく。  
※育苗期間はセルトレイで8～10日間です。定植日を基準に播種をおこなう。
- (注)栽培面積(植付本数)が多い場合、1日当たりの定植本数考えて、7日間空けて段播きする。

## 定植

- ・本葉1～1.5枚で定植する。(ポリ鉢の場合2～3枚)  
※老化苗での定植は、活着遅れ、生育遅延になるので注意する。  
※定植後、晴天が続く場合は、直ちに植穴に散水して活着を促す。
- ・萎れや焼けで欠株が生じた場合は、早めに予備苗で補植する。
- ・ネキリムシ対策としてダイアジノン粒5(4～6kg/10a)を定植時に土壌混和する。

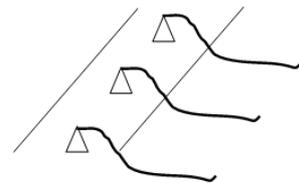
## 摘芯

- ・親づる1本仕立ての場合は摘芯せずに、そのまま親づるを伸ばす。

## 整枝・配置

- ・親づる1本仕立ての場合、主枝1本を残し、他はすべて除去する。特に株元から発生する子づるは早めに取り除く。※雄花は取り除かない。
- ・つるが伸びてきたら重ならないように、つる先を配置する。

配置方法



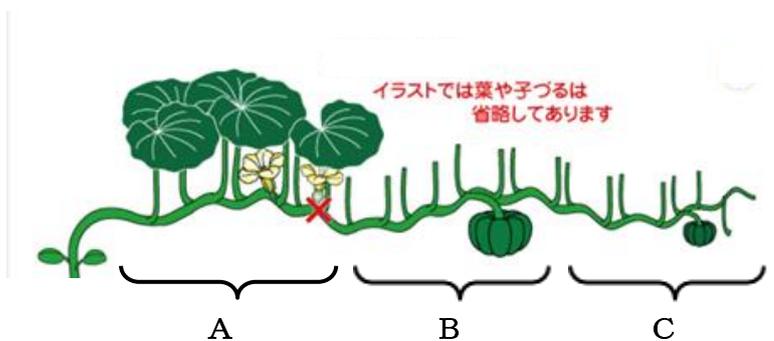
親づる1本仕立て

## 追肥・敷きわら・・・施肥の項参照

- ・マルチの外につるが伸びる前に、追肥と中耕除草を兼ねて耕うんする。
- ・追肥後、晴天続きで降雨がない場合には、施肥した部分に灌水する。
- ・敷きわらの準備がある場合は、つるが伸びる方向に敷き詰める。

## 着果管理

- ・目標着果節位は「第1果は10節前後」、「第2果は15節前後」を目安にする



人工交配

- A 低節位果(株元～7節)や変形果は早めに除去する。
- B 10節前後に第1果を着ける。
- C 15節前後に第2果を着ける。

【人工交配の方法】… 着果しにくい時は早朝に人工交配を行う。

- ・ 開花節位の葉の直径が 30 cm 以上となった以降の節(雌花)に着果させる。
- ・ 雌花の開花を確認したら、雄花を切り取り周りの花卉を全て切取る。  
この花粉を雌しべに付ける。

注)人工交配は、時間の経過とともに花粉の鮮度が落ちるため、早朝から 8 時頃まで行う。

### 玉直し、マット敷き

- ・ ソフトボール大になったら果実マットを敷く。  
※小さいうちに行わない・・・生理落果、傷予防  
(注)果実マットの裏表を間違わないように！凸が上
- ・ 直射日光が当たる果実には日焼け防止として、新聞紙やワラ等で日除けを行う。



マット敷き

### 収穫適期の目安

- ・ 着果後 55 日頃(積算温度 1,000~1100℃)を目安とし、収穫の目安は果梗部全面に縦割れのコルクが入り、果皮の光沢がなくなった頃。
- ・ 試し切り、試食をして総合的に判断し、着果した順に収穫する。

#### 【アドバイス】

雌花の開花日、着果を確認した月日をメモしておくことで、収穫日の目安が付きまます。着果後 50~55 日頃。



収穫適期の果実

### 風乾・調製・箱詰め

- ・ 風通しの良い納屋等の日陰で、果梗がよく乾くように互い違いに 2 段積みし、1 週間以上乾かす。  
風乾することで、甘みが強くなる。
- ・ 風乾終了後、軍手等で果実をカラ拭きし、ツヤを出す。
- ・ 出荷規格に合わせて箱詰めを行う。



風乾

### 病虫害対策対策のポイント

- ・ 葉の込み合っているところの葉裏などを観察して、病虫害の早期発見に努める。
- ・ 薬剤散布は、十分量の薬量で葉裏や株元にかかるように行う。
- ・ 薬剤耐性菌や抵抗性害虫の発生を抑制するため、同一分類 (RAC コード) 剤の連続散布は避ける。
- ・ 降雨が続くようなときは、額縁排水路(排水口)の設置や手直しにより圃場内の排水に努める。
- ・ 果実は、直接土に接しないように、着果 20 日頃から順次マットを敷く。
- ・ 台風が通過した場合、強風による葉茎折れや葉破れによる傷口から細菌が侵入し、軟腐病等に罹病する恐れがあるため、台風通過後は圃場内の排水とあわせ必ず Z ボルドーで殺菌する。

※農薬散布時間の省力のためドローン防除をお勧めします。

ドローン使用により防除できる農薬は別紙のとおり

## カボチャ防除体系

### ◎殺虫剤

農薬名	病害虫名	希釈倍率	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	IRAC コード
ダイアジノン粒剤5	ケラ・ネキリムシ類	4～6 kg/10a	は種時又は定植時	2回以内	1 (B)
	コガネムシ類虫		収穫21日前まで	4回以内	
モスピラン水溶剤	アブラムシ類	2,000～4,000倍	収穫前日まで	2回以内	4A
	ウリハムシ	4,000倍			
	カボチャミバエ	2,000倍			
※ マラソン乳剤	アブラムシ類・ダニ類	2,000～3,000倍	収穫前日まで	5回以内	1 (B)
	ウリハムシ	1,000倍			
※ アディオン乳剤	アブラムシ類	2,000～3,000倍 100～300L/10a	収穫前日まで	5回以内	3A

※受粉促進を目的としてミツバチを利用している場合は使用を避ける。

### ◎殺菌剤

農薬名	病害虫名	希釈倍率	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	FRAC コード	予防効果	治療効果
ダコニール1000	うどんこ病 べと病 白斑病	1,000倍 100～300L/10a	収穫7日前まで	3回以内	M05	○	
シグナムWDG	うどんこ病	1,500～2,000倍 100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	11 7		○
ストロビーフロアブル	うどんこ病 べと病	3,000倍 100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	11		○
Zボルドー	果実斑点細菌病 軟腐細菌病	500倍 100～300倍L/10a	-	-	M01	○	
パンチョTF顆粒水和剤	うどんこ病	2,000倍 100～300倍L/10a	収穫前日まで	2回以内	U06 3	○	○



うどんこ病



ウリハムシ

## カボチャ防除体系（ドローン）

農林水産省HPより

### ◎殺虫剤

農薬の名称	適用病害虫	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用回数	RACコード
カスケード乳剤	トマトハモグリバエ	16～32倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	15
モベントフロアブル	アブラムシ類	24倍	1.6～3.2ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	20
	コナジラミ類	24倍	1.6～3.2ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	ハダニ類	24倍	1.6～3.2ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	
クマイイベネビアOD	ハスモンヨトウ	20倍	1～2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	28
	ハモグリバエ類	20倍	1～2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	

### ◎殺菌剤

農薬の名称	適用病害虫	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用回数	RACコード
ダコニールエース	うどんこ病	8～16倍	1.6～3.2ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	M05
インプレッション水和剤	うどんこ病	16倍	3.2ℓ/10a	発生前から発生初期まで	—	未
セレナーデ水和剤	うどんこ病	16倍	3.2ℓ/10a	発生前から発生初期まで	—	未
スコア顆粒水和剤	うどんこ病	12倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	3
ベジセイバー	うどんこ病	16倍	1.6ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	7・M05
	つる枯病	16倍	1.6ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	べと病	16倍	1.6ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	
	白斑病	16倍	1.6ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	
ショウチノスケフロアブル	うどんこ病	32倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	U13・9

使用に当たっては、説明書にある希釈倍数、使用液量など必ず確認ください。

散布に際しては、無風の時間帯とし、隣接圃場への飛散に注意しながら行うこと。



ドローンによる農薬散布